

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

人は鏡
～人を裁くことは宗教者の役割ではない～

◆ 尽きない悩みと仲裁役

悩みというものは尽きないものだ。しかも複数の問題がこんがらがった状態であることが多い。

そして他人からすると「なんだそんなことか」と思うようなことでも、当事者からしたら寝ても覚めても頭から離れず、心を締め付けるものかもしれない。また、揉め事の仲裁役ともなると、さらに気を揉むことになる。

「こんな酷いことをされた。たすけてほしい」

「先にあいつがやったんだ。悪いのはあっちだろ？」

「あなたは私の味方でしょ？」

揉め事の間に入って、よくよく話を聞くと、双方に事情があり言い分がある。そこには別々の物差しがあり、正義がある。それらが簡単に交わることはない。

夫婦、親子、親戚、職場、

学校、ご近所さん。はたまた国家や民族、宗教、政治やイデオロギー【※1】など大きな枠組みでも、その構造は同じように思う。あちらを立てたら、こちらが立たず。混じり合うことのない水と油のよう。一度壊れた人間関係を修復するのは容易ではない。

相手の悩みに共感し寄り添う。アドバイスを伝える。何らかの援助をする。世話をし



て仲をとりもつ。はっきり白黒をつけて裁く。相談役や仲裁役として、できることはいろいろあるだろう。

ただ、本当に手助けをするのであれば他人事では済まない。「悩み」の渦中に入り込むことになる。相談者の問題課題（悩み）がどうしたら解決できるのかという、新たな「悩み」を背負うのだ。そうやって、いつの時代もどんな場所でも、やはり人間の悩みは尽きることがない。

◆ 人は鏡

「他人は自分を映し出す鏡」という。

「人のふり見て我がふり直せ」という意味にもとれるが、今回の文脈でいうと「他人というものは、自分の心の状況を映し出す鏡である」という考え方である。例えば、「自分を大事に思っしてほしいならば、まず相手を大事にすること」ということだ。相手の言動は、自分の内面をそのまま映す鏡となる。

また、相手に腹が立ったり憎んだりネガティブな感情を持つたとしたら、それはもしかしたら自分も持っている癖や性分なのかもしれない。他者を鏡のようにして、あなたの内面の嫌な部分が映っているということになる。

「鏡（かがみ）」の中から「我（が）」を取り去ると、

残るのは「神（かみ）」になる

神道にはこういう言葉がある。なるほど。自分の悩みや苦しみと本当の意味で向き合うための考え方の一助になるかもしれない。

◆ 鏡の「ごとく」映るなり

お道を信仰する者として、親神様の教えをもとにどう考えるべ

きなのだろか。

みなせかいのむねのうち

かじみのごとくにうつるなり(みかぐらうた 六下り目三ツ)

世界中すべての人の心の内は、合わせ鏡にものが映るように、裏も表も親神様の目にはみな見えるのである。という解釈である。また、

世上が鏡、いかなるもかりもの、

心我がもの、心通り鏡に映してある。(M21・7・29)

というおさしづももある。それぞれの心通りに世上(出来事や周りの人)を鏡として映している。と解釈できるのではないか。

天理に適う心でさえ通っているなら心配はないが、人間の心には弱さがある。我が身かわいい、我が身勝手な「我」もある。そんな人間の天理に沿わない「ほこりの心」「心得違こころちがい」に対して、親神様は陽気ぐらしに導くことを目的とし、関与する者の心の切り替えを促すために、病気やトラブルといった「ふし(契機けいき)」をあらわされる。お見せいただく事柄は、すべて心が映ったものである。

もつと踏み込んでいうと、出来事はただの事象じしやうでしかない。出来事に対し、心が「困りごと」と認識して初めて「悩み」となる。

具体的な例を出そう。どうしても許せない人がいる。その人にされたこと、言われたことが許せない。誰が見ても酷いということもあるだろう。しかし問題の本質は起こった出来事にあるのではない。あなたの心の中にあるどうしても許せないという「苦しさ」が本場の問題なのだ。執着なのか、エゴ「※2」なのか、心の器なのか、いんねんなのか。相手という



鏡を通してこそ、自分の「我」と向き合うことができる。

悩みというものは、すべて鏡のように自分の心が映ったものだと考えてはどうだろうか。心の矢印が相手ではなく、自分に少し向くはずだ。相手や世上といった鏡を通して、自分の深い内面と向き合う。天理の教えをもとに、心を掃除し、親神様の思召に自分の心のチューニングを合わせていく。そうやって我を取っていくのだ。

そして同時に気づいたことがある。それは、お道のようにぼくに求められるのは問題解決だけではないということだ。本当に困っているのは誰なのか。その問題の奥に潜む「困りごと」||「悩み」は何なのか。表面上の問題ではなく、困っている人の悩みの本質にこそ神意が込められているのかもしれない。

相談役や仲裁役の立場になると、ついつい相手を裁いたり、正論を押し付けることをしてしまいがちだ。しかし、本当に向き合うべきは「悩み」の根っこにある親神様の思おぼしめし召(期待)を相談者とともに掘り下げていき、心を切り替えていく伴走役ばんそうやくをすることが我々ようぼくの役目ではないだろうか。

言うは易く行やすうは難かたし。

おたすけ、おたすけと叫ばれる今の時旬にこそ、本当のたすかりとは何か、という核心に向き合い続けたいと思う。

【※1】個人または社会集団によって共有される思想や価値観

【※2】自分の利益を中心に考え、他人のことは考えない立場

立教一八八年二月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【立教百八十八年 春季大祭 祭式】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。親神様には旬刻限の到来により教祖をやしろにこの世の表にお現れになり、よろづ委細の真実をお説き明かし下され、五十年にわたる教祖ひながたの道によって、陽氣ぐらしに向かうたすけ一条の道をおつけ下さいました。爾来、変わることをなき親心をもつて、私共を心の成人へと御導き下され、お連れ通り頂く果てしなき御慈愛、御厚恩のほどは、ただただ有り難く勿体無い極みに存じます。私共は届かぬながらも御恩報じを思い念じ、存命でお働き下さる教祖をお慕い申しつ、お道の御用に励ませて頂いておりますが、その中にも今日この日は、教祖が子供可愛い故、定命を二十五年お縮めになり、扉開いて世界ろくぢに踏み均しに出られた忘れ得ぬ尊き元一日の理を受けて、これの教会に御許し頂きます春の大祭の日柄で御座いますので、只今から御役に預かるおつとめ奉仕者のようぼく一同、正月二十六日の理に思いを致し、一手一つに心を揃えて座りづとめ、てをどりを勤め立教百八十八年の春季大祭を執り行わせて頂きます。御前には、折柄の寒さの中を遠近向わず馳せ参りました縁の道の子たちが、共におうたを唱和し、日頃賜る厚き御恵みに御礼申し上げ、尚も一筋心にお継りする状を御覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますよう御願い申し上げます。

こと分けて申し上げます。昨日は繁藤の理に繋がる部内教会長夫妻をはじめ、主だったようぼくが参集し「年頭の集い」を開催致しました。本年は教祖百四十年祭に向かう三年千日の仕上げの年にあたり、諭達にお示し頂く指針、また繁藤大教会の活動方針を胸に、一人ひとりひながたを求め、教祖の御心に溶け込んで、たすけ一条に歩む決意を新たに致しました。また本日の大祭に併せて、本部員高井久太郎先生に御巡教頂き、おつとめ後に御講話を頂戴致します。御講話をしかと拝聴し、信仰の喜びを胸に、明日に希望を、今日を陽氣に歩み出す契機とさせて頂きます。何卒、私共の勇み心をお受取り下さいまして、この上共によろづたすけに自由の御守護を賜り、世界ろくぢとの御言葉通り、一れつ兄弟姉妹が互いに結び合う、神人和樂の陽氣づくめの世の状へと立て替わりますよう御導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会立教百八十八年春季大祭 祭典役割》

祭主	指図方	扨者	扨者	賛者	男		女		地方	笛	チャンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話						
					座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半																		
大教会長	田村辰久	佐藤栄治	藤田一憲	佐々木 恵	村上由高	座りづとめ	大教会長	前大教会長	田村辰久	大教会長夫人	前会長夫人	黒石伸子	佐藤栄治	為田基紀	藤田一憲	宮田孝道	安部道郎	藤田憲明	村上英士	為田紀久男	田村久徳	村上美栄子	藤田洋美	佐藤順子	高井久太郎
立花真一郎	佐々木 恵	前田 豊	田村省悟	村上由高	空閑一将	てをどり前半	佐藤成彦	空閑一教	伊藤正福	宮田まゆみ	為田賢子	佐藤明子	空閑一将	前田 豊	村上由高	田村省悟	田村聡佐	佐藤節幸	立花真一郎	川田節夫	空閑慶吾	佐藤文代	田村睦美	武市まち子	宮田みなみ
						てをどり後半	佐々木 恵	土居道久	藤田 誠	村上 綾	空閑真理代	阪本喜代子	宇山基紀	坂口正幸	坂井博文	宮田教一	佐藤一三	渡辺道仁	立花孝一	秋月英希	黒河明大	高山範子	田村育与		

【神殿講話】

(2月) 佐藤 栄治

【おかえり講話並びに

おさづけの理拝戴者講話】

(2月) 藤田 憲明

【教会長神殿当番】

(2月) 繁金・方城

(3月) 富久地・赤池

【詰所教養掛】

(2月) 宮田 孝道

(3月) 前半為 田基紀
後半村 上英士

【詰所事務当番】

(2月) 平野 正敏

(3月) 村上 由高

【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん

4月16日～30日(紋宝)

10月1日～15日(本山)

○婦人会詰所ひのきしん

2月25日～26日(本山2名)

【お運び】

去る、1月26日、南田川分教会(西田川部属)では、立花孝一氏が六代会長の理のお許しを戴かれました。

就任奉告祭 2月23日



【年頭の集い】

去る、1月20日「年頭の集い」を開催させて頂きました。

当日は、大教会長から年祭3年目について挨拶を頂き、又、宗教者支援協会から、施設賠償保険等について説明を頂きました。その後、たちばな会おぢば帰り団参について、各会からの発表後、各班に分かれて練り合いを持たせて頂きました。更に、夕食には本部員高井先生と会食を持たせて頂き、次の日の大教会春季大祭には、高井先生より結構な神殿講話を拝聴させて頂きました。受講頂きました皆様、リーモートで参加頂きました皆様誠にありがとうございました。

【仕切り月 提出のお願い】

昨年と同様に、本年も仕切り月に合わせ大教

会定例巡教をつとめさせて頂きます。この取り組みも本年で3年目になります。年祭活動仕上げの年となる本年、「おつとめ奉仕者の役割の手を揃える」という点に強く意識を持って取り組み、年祭活動の集大成の一つとして、その成果をご存命の教祖に御覧頂きたいと存じます。

仕切り月をつとめ終えられましたら、お配りしております「仕切り月をつとめ終えて」の用紙にご記入頂き、大教会までご提出下さいますようお願いいたします。ファックスでも結構です。

【立教188年

「たちばな会おぢば帰り団参」について】

たちばな会おぢば帰り団参における、運営費用(ポスター・記念品等)について、1教会二千円のご負担をお願いいたします。3月末までに五季づとめと同じ要領でお納め下さい。

【詰所活用委員会】

詰所改修ふしんの御供については、1月をもって区切りとさせて頂きました。大勢の方から真実の御供をたまわり、誠にありがとうございました。

詰所の改修の方は今後も続けさせて頂きます。今月27日より3月にかげまして、1階女子トイレの改修をさせて頂きましたので、ひのきしんをして頂ける方がおられましたら、お

手伝いの程よろしくお願いいたします。

【婦人会】

◇「天理教婦人会第107回総会」

《総ての会員がおちばへ人を誘っておちばへ》
式典

日時 4月19日(土) 午前9時半

場所 本部中庭 南・東礼拝場 西境内地
おつとめ 式典に引き続き

記念行事 支部の集い

※総会後、詰所にて当日いただいたお言葉のふりかえりをいたします。

たくさんの方にお集まりいただきませう、よろしくお願いいたします。

◇別席強調月間

3月1日(土) ～ 4月30日(水)

【少年会】

少年会の活動の上にお力添えを賜り誠にありがとうございます。

1月27日の「年頭幹部会」において本年の活動方針・重点項目が発表されました。

▽立教188年天理教少年会活動方針

教祖のひながたを目標に教えを実践し、
子供に信仰のありがたさを伝えよう

▽重点項目

- ・ 子供に教祖のお話をしよう
- ・ 教会おとまり会、教会こども会を実施しよう

・ 地域で少年会ひのきしんを実施しよう
▽こどもおちばがえり

年祭活動最後の年

- ・ 1人でも多くの子供とおちばがえりの喜びを味わおう
- ・ 全教会からの帰参を目指そう

今年もこの方針に沿って勤めさせていただき
ますので、変わらぬお力添えを賜りますようよろしく
お願いいたします。

○おつとめまなび総会

立教188年3月30日(日) 9:30～
参加費 1人1000円

おつとめ役割

座りづとめ 各隊代表でつとめる

よろづよ、1・2下目 垣生隊

3・4下目 直属・藤高・佐岡

高杉・高阪隊

5・6下目 本山・馬関・別府

飯武・藤広隊

7・8下目 城下・種崎隊

9・10下目 西田川隊

11・12下目 各隊代表でつとめる

昼食はカレーとさせて頂きます。模擬店・室内
オリンピックをさせて頂きますので各直属から
当日2・3名のひのきしんをよろしく願
います。

子供も少なくなっていますが、役割の足りない
ところは大人の方のお手伝いをお願いします。

○教会おとまり会・教会こども会

昨年(立教187年1月1日～12月31日)に、
教会おとまり会・教会こども会を実施された
教会は、2月20日までに団長、大教会までご
報告をお願いします。本会へ実施報告をしま
すのでよろしく願います。

【学生会】

学生生徒修養会の「大学の部」が、3月4
日～8日まで、「高校卒業生コース」が、3月
10日～12日までの日程で開催されます。申し
込みがそれぞれ今月15日迄となっております。
対象になります学生さんにお声掛けの程、よ
ろしく願います。

下記のQRコード・

URLより、詳細がご覧

頂けます。



<https://happist.net>

【広報・史料部より】

「部内教会略史」の更新として資料提出を
お願いしてりましたが、まだご提出いただ
けてない教会には、平成4年に発行した「大
教会年譜表と写真集・部内教会略史」をご参
照いただき、配布致しております歴代会長経
歴記入用紙と、平成4年以降の教会の経緯記
入用紙に、早急にご記入の上ご提出下さいま
すようお願い致します。



たちばな、
おちばへ。



たちばな会おちば帰り団参

2025 6.29 sun

団参の詳細内容はホームページ・SNSをご確認ください

<https://tachibanakai.net>

●おつとめ／当日10時30分より、七大教会が本部神殿に集まり、拍子木を入れての「おつとめ」をつとめさせていただきます。

LINE 情報は随時ホームページや SNS などで発信予定です。まずはこちらの公式 LINE をぜひ登録ください。



📍 たちばな会おちば帰り団参実行委員会

教祖140年祭 三年千日の活動方針

明日に希望を、 今日を陽気に

～ひながたを心に、プラスワンの誠真実を～

実践目標

教会に人をお連れし、たすかる道を伝えよう
誠の理を、日々に働かそう
おさづけの取り次ぎ、チラシ配りの推奨
天理カードの登録推奨（目標 10,000人）

教えに親しみ、ひながたを心の頼りに明るく歩もう
信者の葉を毎日拝読する
ご守護に気づき、身近な人に信仰を伝えよう
お道と社会に貢献できるようぼくを育てよう

ふしから芽が出るご守護をいただこう
心を定め、日々の理づくり・徳積みに励もう
「声は肥」旬を外さないよう+1の声かけを
月次祭を賑やかに勤めよう（仕切り月の実施）



繁藤公式 LINE で講話やブログなどを配信しています。
ぜひご登録ならびにご紹介をお願いします。



天理教繁藤大教会
SHIGETO